

年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう> 190407



ごみ再生率 80%超 日本一

ごみ再生率80%超 日本一



鹿児島県大崎町
12年連続で達成

住民協力 27分別浸透

ごみのリサイクル率が80%を超え、2017年度まで12年連続で日本一を誇る町がある。人口約1万7千人の鹿児島県大崎町は、ごみを27項目に分別し再利用を徹底、持続可能な社会づくりに向け、住民と共に築き上げた「大崎システム」が注目を集めている。

今年3月上旬、鹿児島市 変わるかに聞き入り、写真の中学生が大崎町のリサイクル施設を撮影。案内した町住民環境課の担当者は「きちんと分別すればごみは減り、社

鹿児島県大崎町のリサイクル施設で、鹿児島市の中学生に説明する関係者(3月6日)

鹿児島県大崎町のごみ分別

①缶	⑩蛍光灯類 など
②リターナブル瓶	⑪乾電池など
③茶色瓶	⑫古着・布類
④無色・透明瓶	⑬廃食油
⑤その他の瓶	⑭プラスチック類
⑥ペットボトル	⑮スプレー缶
⑦段ボール	⑯カセットボンベ
⑧新聞紙・チラシ	⑰金属製ふた・鍋・やかん等
⑨雑誌・用紙	⑱割り箸・串など
⑩コピー用紙	⑳陶器類
⑪シユレック	㉑小型家電
⑫紙パック	㉒生ごみ
⑬紙箱	㉓一般ごみ
⑭包装紙	㉔(資源ごみ・生ごみ以外)
⑮包装容器	㉕粗大ごみ
⑯包装紙・袋	

会のためになど知ってほしい」と話した。リサイクルのポイントは分別の徹底だ。紙類は新聞紙・チラシ、雑誌、コピー用紙、シュレッダーにかけられた紙などに分け、瓶は茶色、無色、その他に分ける。圧縮したプラスチック類などは業者に、生ごみからできた肥料は農家に販売し、年に約800万円を売り上げている。埋め立てるのははちり紙やおむつなど(年間約700

ただで、1人当たりのごみ処理費用は、全国平均の約半分の年間7千円前後。重量で割り出すリサイクル率も17年度は82.0%と、日本全体の20.2%をはるかに上回る。リサイクルに力を入れたきっかけは、埋め立て場所の不足だ。町は約20年前まで、ごみを全て隣の志布志市内に埋め立てていた。近い将来にいつばいになると予想されたが、焼却炉は建設費や維持費が高いため断念。分別の徹底で、埋め立て施設を長持ちさせることにした。現在のペースなら、あと数十年は使える。「町担当」という。分別には住民の協力が欠かせない。当初は「面倒くさい」と不満の声もあったが、説明会を数回重ね、理解を求めた。町の全職員に、ごみ集積場を管理する自治会を割り当てて一緒に分別し、根付かせていった。ノウハウを学ぼうと、年間約50の自治体や企業などが視察に訪れる。12年以

(佐賀新聞 2019.4.7付)

◎記事から読み取ろう

○この記事の町はどこですか。

県 町

○この町が12年連続で日本一を誇っているのは、どんなことですか。

○それは、どこが優れているのですか。他の地域と比べてみましょう。

・日本全体では、_____%

・ごみ処理費用は全国平均の約半分で
年間_____円

○そのポイントはどんなことですか。

◎広げよう・深めよう

○「接続可能な社会づくり」とは、どんな社会でしょうか。

◎自分の考えをまとめよう

*友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○ごみの処理について、自分たちの町や家庭で取り入れたいことや取り組むべきことは、どんなことだろう。